

# 松川村議会だより

第172号  
9月定例会

## 平成29年度決算認定 基金残高37億円

### 保育園・小中学校教室へエアコン導入

◀すずむし探索を楽しむご家族



#### 平成29年度決算に付した意見

##### [共通事項]

○村税等の収納率が年々向上している。また実質公債費比率は前年度に比べ更に改善した。引き続き堅実な財政運営に努められたい。

##### [個別事項]

##### 総務課

- 住宅リフォーム補助金制度は地域経済に一定の効果があつたので、継続されたい。
- 一万人復活特命係の様々な移住・定住に向けた取組みを評価する。更なる創意工夫に努められたい。
- ふるさと納税は、自主財源の確保として有効である。より一層の取組みに期待する。

##### 農業委員会

○農業委員会組織が新しくなった。今後も農地の保全管理等に期待する。

##### 経済課

○松林健全化整備業務を樹種転換事業と併せ、引き続き積極的に進められたい。

##### 学校教育課

- 村費による手厚い教職員の配置を評価する。
- 子育て支援の拠点として、子ども未来センター「かがやき」の積極的な有効活用に期待する。

平成30年第3回定例会は、9月10日から21日までの12日間の会期で開催され、平成30年度各会計補正予算を原案どおり可決しました。  
平成29年度各会計決算は、議案等審査特別委員会で審査した結果、健全な財政状況と判断し意見を付して認定しました。(左記参照)  
また陳情1件は、社会福祉文教常任委員会が付託を受け審議し、全会一致で趣旨採択となりました。  
一般質問には8名が登壇しました。(16頁18ページ参照)

7月の西日本での豪雨、冠水した関西国際空港、9月には北海道での震度7の地震と直後の全道停電など、各地で異常気象と災害が続きました。  
村内では、9月4日から未明にかけての台風21号で、リンゴの倒木と落下、農業用倉庫のシャッターと鼠穴区村道に被害がありました。お見舞い申し上げます。

## 9月定例会 議案審議結果 すべて全会一致で承認・同意・議決・認定（千の位を切り捨て）

件名	内容
【専決】平成30年度松川村一般会計補正予算（第3号）	595万円追加し、39億3919万円とする。各施設の消防設備修繕とすずむし荘エアコン修繕など。
松川村都市公園条例の一部を改正する条例	都市公園法施行令改正に伴い、公園内の運動施設の割合を定める条例を改正する。
固定資産評価審査委員会委員の選任について	固定資産評価委員会委員の任期満了に伴い、矢花千束氏、川上雅嗣氏、白澤繁氏を選任に同意。
平成30年度松川村一般会計補正予算（第4号）	2911万円追加し、39億6831万円とする。人事異動に伴う人件費と、ゆうあい館の特殊浴槽2台の入替え、すずむし荘エアコン修繕など。
平成30年度松川村国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	1749万円追加し、10億7679万円とする。基金残高1億7041万円。
平成30年度松川村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	836万円追加し、1億1136万円とする。
平成30年度松川村公園墓地造成事業特別会計補正予算（第2号）	20万円追加し、1190万円とする。公園内道路の工事。
平成30年度松川村特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）	28万円減額し、5億3439万円とする。
平成30年度松川村一般会計補正予算（第5号）	621万円追加し、39億7453万円とする。保育園、小中学校教室へのエアコン設置の設計委託料。
平成30年度松川村水道事業会計補正予算（第2号）	水道事業費325万円追加し、1億3754万円に、資本的支出600万円追加し、3億1369万円とする。
平成30年度ゆうあい館介護用入浴機器購入契約の締結について	ゆうあい館介護用入浴機器を885万円で2台購入する契約をメディカルケア株式会社と締結。（落札率71.9%）
平成29年度松川村一般会計歳入歳出決算書	歳入総額42億1200万円、歳出総額41億7079万円、歳入歳出差し引き残額は4121万円の黒字。
平成29年度松川村国民健康保険特別会計歳入歳出決算書	歳入総額12億1482万円、歳出総額12億1409万円、歳入歳出差し引き残額は73万円の黒字。
平成29年度松川村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算書	歳入総額1億214万円、歳出総額1億192万円、歳入歳出差し引き残額は22万円の黒字。
平成29年度松川村公園墓地造成事業特別会計歳入歳出決算書	歳入総額285万円、歳出総額284万円、歳入歳出差し引き残額は1万円の黒字。
平成29年度松川村特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入歳出決算書	歳入総額5億2679万円、歳出総額5億2543万円、歳入歳出差し引き残額は136万円の黒字。
平成29年度松川村水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	水道事業収益1億8133万円、水道事業費1億4730万円、差し引き残額は3403万円の黒字。3403万円を減債積立処分とする。

## 陳情の審査結果

件名	採決結果
私立高校に対する公費助成をお願いする陳情書	全会一致で趣旨採択

# 一般質問 8人の議員が登場

平成30年9月19日・20日



労働力不足と松川村の現状

草間 正視

問 村内の介護施設は何か所で定員数は。

答 12ヶ所、定員は195人。

問 どんな職種が何人不足しているか。

答 北アルプス広域で86の事業所のうち、55の事業所で不足。介護福祉士56、介護士42、准介護士15施設で、人員は不明。

問 各施設の経営状態は。

答 83事業所のうち16の事業所が今後も赤字が継続する見込み。

問 経営支援以外で間接的にでも行政サポートなど行われているか。

答 村では、各関係者を集めて地域ケア会議を月1回開催。高齢者支援のネットワークづくり、サービス向上に関する研修を実施。

## 元気づくり支援金

問 この制度はいつから実施されているか。

答 平成19年度より。

問 昨年の村の申請件数

と事業内容、金額は。

答 イベント用灯籠、友好都市交流記念事業、山麓ワサビ、農家民泊の4事業で374万6千円。

問 他市町村に比べて村の申請件数、金額とも極端に少ないが、村として周知啓蒙して、支援金の有効利用のサポートを。

答 PRして進めていきたい。

問 地域づくりに向けた人材育成事業としての池田工業高校の専攻科設置は、郷土の若者定着促進、地域で人を育て就労することが期待される。進捗状況は。

答 高度な技術を身に付け、地元企業の即戦力になり得る人材育成は、人材確保と地域振興に大きく寄与する。行政、産業、教育等の関係者が設置に向けた具体案を検討しており、池工の将来像と共に、連携について考えていきたい。



松川村の基幹となりうる産業振興

大和田耕一

問 村の基幹産業は何か。

答 基幹と基盤が混同されている面がある。かつては農業を基幹としていた。現在は給与所得者が

税収の大半を占め、農業は基盤産業としている。

問 歳入村税の内訳は。

答 住民税の内訳では、総額4億1000万円のうち給与所得者が84.9%(3億4800万円)。営業所得

が5.9%(2400万円)。農業は1.9%(760万円)。

問 財源確保のための産業振興ビジョン、政策は。

答 企業誘致、商店の誘致、更にベッドタウン化も方策のひとつと考える。

問 基幹産業として最も有効なのは観光だと思いが、村の観光客数、その経済効果、村内宿泊施設数、宿泊者数は。

答 平成29年度の観光客数は、各施設総計61万人。宿泊客4700人。宿泊施設は3ヶ所、受入れ可能数は75人。

問 村の観光の欠点は通過型で、滞在型に対応できていない。観光振興への対応は。

答 専任として観光協会2名、地域おこし協力隊2名、嘱託職員1名体制。実質振興予算として3700万円程度。

問 プロのシンクタンクなどを活用して診断、振

あると判明した。

問 村文化財審議会委員の構成は。

答 学識者等5名に委嘱している。

問 継承の意向は。

答 絵馬に対しては保存方向で考えたい。

## 学校運営委員会制度の状況

問 どのような制度か。

答 地域住民の皆さんに日常的に学校に来てもらい、子どもの教育や学校運営について話し合い、

興策を模索すべきでは。答 方策の一つとして検討したい。

問 今の工業団地以外で企業誘致の考えは。

答 大いにある。

## 議会改革

問 日本中で問題視されている地方議会について村長の思いは。

答 議会の事は議会の中で検討し、村に示してほしい。

問 予算を伴う議会改革が提案された場合は。

答 その都度考えたい。



村政130周年に向けて

梨子田長生

問 村の考えは。

答 多目的交流センター10周年に向けて実行委員会を立ち上げ、記念事業を検討中である。村も

130周年に向けて実施予定。

問 村歌の制定は。

答 村民が望んでいることは期待に込めたい。

## 村の文化財継承

問 基本的な考え方は。

答 指定基準の要項に合

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で

答 指定基準の要項に合

わけて、県文化部と相談。

結果は明治時代の作品で



### 人口対策

平林 泉

問 松川村第6次総合計画の後期総括は。

答 来年度末までの計画なので、現時点では答えられない。

問 昨年8月1日現在の人口は何人か。

答 9890人。

問 今年8月1日現在の人口は何人か。

答 9771人。

問 1年間で119人減少しているが、第6次総合計画の見込み数1万7000人は妥当か。

答 修正目標数は9700人。総合計画ではあえて高い目標を設定した。

問 交付税は一人いくらか。

答 一人約14万5000円から15万5000円。

問 人口減少の要因は。

答 少子化による出生数の減少、高齢で亡くなる方の増加、人口流出の増加が挙げられる。

### 一人暮らし高齢者のサポート

問 今年度の65歳以上の人口は。

答 3144人。

問 平成25年度65歳以上の人口は。

答 2796人。5年間の推移は、75歳以上で133人、65歳以上で348人増えた。

問 平成25年度75歳以上単身世帯数と、平成30年度単身世帯数の推移は。

答 25年度304世帯、30年度372世帯で68世帯増えている。

問 高齢者の一人暮らし、老々介護の人口・世帯数が増加している。介護関連の仕事は、賃金も安く離職率も高い。今後の人材確保は。

答 賃金は上がっているが労働力不足は海外労働者に頼るしかない。来春池田町に設立される専門学校に期待したい。



### 防災

上田 治美

問 河川内の流木・樹木の伐採撤去について県の対策は。

答 県に一般公募で伐採する計画があり、9月末までに場所の選定を行う。

問 池田町での堤防欠損は、河川敷内の堆積土砂や樹木の影響が大きいのではないかと。県に対策を要望していただきたい。

答 あらゆる機会を活用して要望しているし、今

後も引き続き要望している。

問 ハザードマップが想定する雨量は。霞提の役割も想定しているか。

答 高瀬川は2日間で246リ、乳川・芦間川は166リで氾濫を想定し、霞提も考慮されている。

問 県は396リを想定してマップ作りをしているが、高瀬川流域の作成

もしていただきたい。

答 来年度に発表される予定。

問 南保育園が浸水想定地域にあるが、避難計画や訓練がされているか。

答 情報が出された段階で保護者にメール配信し、園児のお迎えを要請する。火災訓練はしているが、浸水での訓練はしていない。

問 ブロック塀の安全点検の結果は。

答 学校周辺に危険箇所はない。

### 子育て

問 保育園、小・中学校の教室にエアコン設置を決めたことに感謝する。今後の予定は。

答 設計委託の予算を計上し、春休みに工事に入るようにしたい。

問 国は予算確保すると言っている。国の方針を受けての決断か。

答 交付金も検討したが、子どもは村の宝であり、交付金が出なくても実施すると決断した。

### 人口減少問題



小原 吉幸

問 出生率2.08という数字は、実現可能な数字なのか。

答 人口置換水準の数字であり、人口減少に歯止めをかけるために必要不可欠な数値である。現時点では達成が難しい数字である。

問 地域の総量を7%縮減し、必要に応じて更新、統廃合を計画的に行う。

問 地域おこし協力隊の雇用契約については。

答 総務省の地域おこし協力隊推進要綱に基づき1年から最長3年の契約となる。

問 村民に特命係応援ボランティアサポーターの呼びかけはできないか。

答 今後30年間に、施設

答 船頭が多くなつてしまい、船着き場を間違える心配がある。現行の人員数でやっていく。

問 空き家バンクへ登録した以外の空き家は何か。

答 移住定住促進補助金として、子育て世代に対しての住宅支援は実施している。

問 松川村の成り立ちに関わってこられた村長の、村の過去、現状、将来に対する認識は。

答 一人万人復活に対して強い覚悟で取り組む。

一般質問 8人の議員が登場 平成30年9月19日・20日



子どもの発達と教育

矢口あかね

問 総合教育会議とは。

答 村長と教育委員会が

意思の疎通を図り、情報共有し、民意を反映した

教育行政を推進するため  
に設置。平成27年度から  
7回実施している。

問 中学生の夏の制服を  
工夫しないか。

答 エアコン設置に併せ  
服装を検討していく。

問 高齢者と保育園児の

交流の内容は。

答 ふれあい会や社協へ  
の訪問を定期的を実施。

問 主権者教育は。

答 議会による出前授業  
や本議会の見学・傍聴な  
どを実施できれば。

松川版ネウボラ

問 全ての妊婦さんが、  
村のサービスや見守りを  
受けられているか。

答 受けられている。

問 産後ケアは十分か。

答 行政区ごとに担当保  
健師がいて関わり続けて  
いく体制になっている。

問 母乳外来の助成の要  
望があるが検討しては。

答 効果を見極め検討。

インクルーシブ教育

問 支援が必要な子ども  
や障がい児の、「かがや  
き」の利用状況は。

答 2階のふれあい広場  
や調理室などを、団体が  
定期的に利用している。

問 支援が必要な子ども

へのICTの活用は。

答 特にタブレットを有  
効的に活用。学ぶことの  
可能性が広がり、集中し  
て学べている。

問 支援が必要な子ども  
を早期に見つけ出し、必  
要な療育や学校へ繋げら  
れているか。

答 児童発達支援事業、  
各種健診、就学前相談、  
りんりん会議などで、子  
どもの正確な情報を伝  
え、専門家へ繋ぎ学びの  
場を提供している。



産業振興

平林 幹張

問 作況指数21haでの生  
産状況は。

答 産地間調整に参加せ  
ず加工米などで均等清算。

問 強い農業づくり交付  
金、経営体育成事業の取  
扱いは。

答 本年度の取扱いなし。

問 強い農業・担い手づ  
くり総合交付金、持続的  
生産強化対策事業は。

答 内容強化変更とし

て、産地基幹施設・先進  
的農業経営確立・地域担  
い手育成支援タイプの3  
種で対応。

問 産地交付金転作拡大  
2万円追加の内容は。

答 当初配分額の1割以  
上と高収益作物への転作  
及び海外輸出などがある。

問 B級グルメの黒豆コ  
ロッケの展望は。

答 レシピを村内の飲食

店で展開。更にイベント  
などで広報していく。

問 林道の実態調査は。

答 北和田沢を含む5路  
線を視察点検。劣化は否  
めないが見積もりを実施。

問 林道周辺の荒廃は否  
めないか。

答 土砂の崩落防止、冬  
季の除雪と清掃を計画的  
に実施している。

問 森林環境譲与税と森  
林整備への使われ方は。

答 間伐や森林整備、人  
材育成、木材利用の促進

森林づくり県民税と併せ  
て協議会で考案中。

問 推進協議会への報  
告・成果と検証は。

答 リンゴは、シンガ  
ポール、酒は台湾に試験  
的に展開中。

問 地方創生と総合戦略  
に向けた推進交付金の位  
置づけは。

答 農産物輸出から村の  
活性化、観光などの誘致・  
宣伝活動を通じ事業展開  
を地道に行う。

を地道に行う。

活動のひとこま

◎意見交換会をしませんか。

これまでにひとつの行政区と意見交換会を行い、  
地域でお困りのことなど、貴重な多くのご意見を伺  
うことができました。村政に反映するよう提案して  
いきます。

今後は、2つの行政区が共催するなど、2件の開  
催を予定しています。各種団体やサークルのお申し  
出をお待ちしています。

お気軽にご連絡ください。

◆お問い合わせ先 議会事務局 Tel 62-31111(代)



▲ 6/30 はつらつレクリエーション



▲ 7/17 池田・松川議員交流会



▲ 7/19 小谷・白馬と議員交流会



▲ 9/16 小学校運動会

本会議の様子をインターネット配信して  
います。松川村議会で検索してください。

常任委員会活動

新潟県長岡市・山古志地区へ視察研修

平成30年7月10日・11日

長岡市ニューボラ・インクルーシブ教育

社会福祉文教常任委員会

ニューボラとは、フィンランド発祥の妊娠期から出産・子育てまで切れ目のない支援を展開する制度です。

産前産後は、心身の状態が不安定になりやすく、育児疲れやストレスが強い時期です。子育てに不安を抱える妊産婦の声に応え、子育ての駅や母子保健推進員のサポートにより、長岡版ニューボラとして一貫した対応や幅広い支援策を講じています。

所で共に学ぶことを保証することをいいます。

長岡市では、障がい者差別の解消法として職員研修や支援窓口の設置、地域での支援協議会を設置、また出前講座などの市民への普及・啓発活動を実施し

て、他の子どもたちと平等に教育を受けられることと、学校において教育を受ける権利に向けての教育環境の整備を図っていました。



▲長岡市庁舎

旧山古志村地域 震災復興状況

総務産業建設常任委員会

平成16年10月23日17時56分

新潟県中越地震が発生し、震度7に続き2時間以内に震度6が4回起こり、山古志村は壊滅的な被害を受けました。

避難指示により、自衛隊ヘリで全村民が長岡市への避難となり、12月1日には国の激甚災害の指定となりました。

棚池の錦鯉約20万匹、牛114頭が犠牲となりました。それにもかかわらず、地震発生時に多数の村民が市内へ買い物や食事にでかけていたことが幸いし、

死者5名負傷者25名と人的被害が少なかったということです。

災害時は、初動対応・情報送受信・生鮮食品の確保に苦労したそうです。

現在山古志村は長岡市と合併しており、震災時に避難した人々も若者ほど山古志地区へ帰らず、高齢化率は現在51%です。

「復旧」とは、震災前の状態に戻すことであり、「復興」とは前の状態より良くすることであると説明を受けました。再度の災害が起こらないことを祈りつつ充実した研修となりました。



▲復興なった山古志の棚田（現在）



▲交流センター展示より 被災状況

\*編集後記\*

猛暑や豪雨に台風、さらに北海道の地震など非常な自然災害の夏を乗り越え、実りの季節を迎えた。

被害にあわれた皆さんが一日も早くもとの生活に戻るよう祈るばかりだ。

議会は、9月議会で29年度の決算を認定した。村は健全財政を続けている。

安曇野の原風景に北アルプスが織りなす素晴らしい景観のもと、子どもからお年寄りまで、みんなが住みやすく穏やかな村であるようにと願っている。

上田治美

議会報常任委員会

- 委員長 矢口あかね
副委員長 上田 治美
委員 平林 泉

- 大和田耕一
小原 吉幸